

2016年12月25日川越教会

遠い東からの来訪者

加藤 享

[聖書]マタイによる福音書2章1～12節

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方で その方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

『ユダの地、ベツレヘムよ、／お前はユダの指導者たちの中で／決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、／わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』

そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせしてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

[序] イエス・キリストの短い生涯

今日は12月25日、**クリスマス**です。**救い主イエス・キリストのお誕生**、おめでとうございます。キリストの誕生した年を元年として歴史を数える西暦では、今年**2016年**ですから、キリストは**2016年前**に誕生したことになりますが、どうもその**4～5年前**に誕生されたようです。

主イエスが**30才頃**になって、バプテスマのヨハネからヨルダン川で**バプテスマ**を受けられた時、神の霊が鳩のように降り、「**これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者**」(マタイ3:16～17)という声が天から聞こえてきました。そして荒れ野に導かれて40日間断食し、悪魔の誘惑を退けてから、救い主としての**伝道活動を開始**されました。しかしその活動は**僅に3年余**で、**十字架**にかけられて6時間も死の苦しみを味わい尽くして、息を引き取られました。

ところが3日後に墓から**復活**して、失望落胆する弟子たちにご自身を現し、彼らの信仰を確立し、**世界宣教**の使命を与えた後に、天に戻って行かれました。この記録が新約聖書の四つの福音書に記されています。しかしマルコ福音書とヨハネ福音書は、主イエスとバプテスマのヨハネとの出会いから復活までの期間の記録で、**誕生の時に遡っての記事**はマタイとルカ福音書だけです。

そしてルカ福音書が、母マリアの立場からの誕生物語であるのに対して、マタイ福音書は父ヨセフの立場からの誕生物語と言えるでしょう。ですからマタイとルカの福音書を合わせて読んで、クリスマスの出来事を理解なさることをお勧めします。

[1] 遠い東からの来訪者

さてキリストが**何時、何処で、どのように誕生されたか**は、ルカ福音書が詳しく記してくれています。それによると、ローマ皇帝の命令で全国民が出身地で住民登録をすることになり、ヨセフは身重のマリアを連れて、ナザレから**ベツレヘム**に旅をしなければなりません。しかしベツレヘムの宿屋は何処も満員です。やむなく**宿屋の家畜小屋**に泊めてもらい、そこでマリアは出産したのでした。彼らは清めの期間33日を終えると、律法の定めに従いエルサレムの神殿に参拝し、我が子に祝福を受けてからナザレに帰って行ったとルカ福音書は記しています。

それに対してマタイ福音書は、**誕生の次第には一切触れず**、遠い東の方から**占星術の学者たち**が、星に導かれてはるばるとユダヤ人の王として生れたお方を拝みに来たことと、彼らの来訪によって引き起こされた**大変な悲劇と混乱**を記しています。大変な悲劇とは、ユダヤの王ヘロデが、自分の地位が脅かされると恐れて、ベツレヘムとその周辺一帯の**2才以下の男の子を、一人残らず殺させた**ことです。そしてヨセフ一家は、遠く**エジプトへ避難**して不自由な異国生活を余儀なくされ、ヘロデ王が死んでから、ガリラヤのナザレ村に帰ったと記しています(マタイ2:13~14)。ですからマタイ福音書は、**遠い東からの学者たちの来訪**をクリスマスの**中心**にしていると言えましょう。

ではユダヤの国とは縁もゆかりもなく暮らしていた遠い東の地方の学者たちが、**どうして**はるばるユダヤの都エルサレムまでやってきて、新しい王の誕生をヘロデ王に尋ねたのでしょうか。王の誕生ですから、ヘロデの王宮で思ったからでしょう。「**星を見たので**、拝みに来た」と言っています。では、彼らをはるばる遠くユダヤにまで旅をさせた**異常に光る星**とは？

古来色々な説がありますが、二つの惑星が重なって一つに見える「**相合**」ではないかという説をご紹介します。これは794年に一度起こる珍しい**天体現象**で、その時は魚座の**土星と木星の相合**が、当時、5月10月12月に三回、起ったのだそうです。占星術の学者たちですから、当然その相合現象に注目したに違いありません。**土星**はユダヤの星、**木星**は世界の支配者となる星、**魚座**は世界に新しい時代が始まる意味を持っている——そこで彼らは、やがて世界の支配者になる王の誕生ならば、**自分たちの将来にも大いに関係があるから**、ユダヤの国に拝みに行こうということになったと云うのです。なるほど納得のいく説明ですね。

世界に新しい時代を始める新しい王の誕生——ヘロデは生粋のユダヤ人ではなく、イドマヤ人です。旧約聖書をよく知らなかったのでしょうか。早速祭司長や律法学者を皆集めて、調べさせました。すると既に700年も昔の紀元前8世紀に**預言者ミカ**が「ユダの地、**ベツレヘム**よ、お前はユダの指導者たちの中で、決して**いちばん小さいものではない**。お前から**指導者が現れ**、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。」(マタイ2:6の引用は、ミカ書5:1の原文を少し変えています)という預言をしていますと、ヘロデ王に報告しました。

ミカと同じ時代の預言者**イザヤ**も、「**驚くべき指導者、平和の君**と唱えられるひとりの**みどりご**が、わたしたちのために生まれる」(イザヤ11:5～)という有名は**メシア預言**を残しています。そこでヘロデ王は、学者たちをひそかに呼び寄せて、星の現れた時期を確かめ、「見つけたら、知らせてくれ。自分も拝みに行くから」と言って、**ベツレヘム**へ送り出したのでした。

すると**あの不思議な星**が再び現れて、学者たちをエルサレムからベツレヘムへの8キロの道を導いてくれました。彼らは目出度く母マリアと共に居る**幼子を見つけ出し**、平伏して拝み、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げました。そして、「ヘロデの所へは帰るな」と夢でお告げを受けたので、別の道を通って、自分たちの国へ帰って行ったのでした。

学者たちが帰って行くと、天使が夢でヨセフに告げました。「起きて、子どもと母親を連れて**エジプトに逃げなさい**」。ヨセフは起きて、夜のうちにエジプトに逃げ、ヘロデが死ぬまで留まりました。一方**ヘロデ**は、何時まで待っても学者たちが戻って来ないので**大いに怒り**、学者たちに確かめておいた時期に基

づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた**二歳以下の男の子**を一人残らず殺してしまいました。

生後2才以下の子どもたちと言いますから、**学者たち**が不思議な**星の光**に気が付いてから、その意味を読み取り、相談し合い、旅支度を整えて出発し、はるばる**エルサレムに到着した**のは、イエス誕生後、大分日が経っていたに違いありません。だからヘロデは生後6ヶ月とか1才以下ではなく、2才以下の男の子を皆殺したのではないのでしょうか。それにしても何と**残虐な振る舞い**でしょうか。

[2] 救い主と出会わせる聖書の言葉

世界に新しい時代を始める新しい王の誕生——ユダヤからは遠い東に暮す占星術の学者たちは、**星に導かれて**エルサレムのヘロデ王の宮殿にやってきました。王の誕生ですから、都の王宮にと思ったのです。しかしそこではありませんでした。しかしそこで王に仕える祭司長や律法学者たちによって、700年前の**預言者ミカ**の言葉が示されました。

イスラエルを治める者、しかも「**その力が地の果てにまで及ぶ**」(ミカ5:3)偉大な支配者、そして「**彼こそまさしく平和である**」(ミカ5:4)と呼ばれるお方が、ユダヤの国の中でも最も小さいものである**ベツレヘム**から出る(ミカ5:1)。

占星術の学者たちは、この**聖書の言葉**を示されて、ヘロデの宮殿を後にしてベツレヘムに向かいました。すると彼らをユダヤの国まで導いてきたあの輝く星が、再び現れて、彼らをベツレヘムに滞在しているヨセフ、マリアとイエスの許に導いたのでした。学者たちの星を見る**知識**と、**聖書の言葉**が結びついて、彼らを新しい王イエスの許に導いたのでした。私たちが**救い主との出会わせる決め手**は、**聖書の言葉**だということを、しっかり覚えておきたいと思います。

また、ユダ族の中で**一番小さいベツレヘム**から、イスラエルを治める者が出る——「**皆から顧みられない卑しい所から**、大いなるお方が出る」という言葉も私たちの意表をつく言葉だと思います。私たちの多くは、子どもを有名な良い学校に入れようとしめます。就職や将来の人生に何かと有利だと考えるからです。これを裏返して言えば、無名な学校からは大した人間は出ないという思いが多くの人々の心にあるということです。ところが神は一番いやしいベツレヘムから救い主イエスを世にお出しになったのでした。強く思える者よりも、**弱く**

思える者、優れていると見えるものより、**劣っているもの**から、**神の働き**は始まるのですね。

十字架に磔にされ、「十字架から降りて来い、そうすれば信じてやろう」を嘲られても、苦しみ続けて死んでいかれたイエス・キリストのお姿に、神は愛と救いの御業を現わされました。ユダヤで一番小さいと言われるベツレヘムでの誕生こそ、**卑しい者**、見劣りする**弱い者**と共に生きて下さる**救い主**に相応しい出発点だったのです。

【結】 イエス・キリストを心に迎え入れる

マタイは、**最初のクリスマスを迎えた人々の反応**を、見事に描き出しました。星の不思議な輝きから、世界に新しい時代を始める新しい王の誕生を読み取って、東の彼方からはるばるやってきて、宝物を献げて礼拝した**学者たち**。

一方その誕生を恐れて、2才以下の男の子を皆殺しにしてしまう**権力者**。聖書の言葉を示されながら、権力者の残虐行為を認めてしまう**宗教家たち**。社会の成り行きに不安を抱くだけで、ただ傍観している**民衆たち**。

ヨセフとマリアは、学者たちから宝物を献げられました。しかしそのためにエジプトでの異国生活を余儀なくされました。若い二人にとっては、大変な苦勞を強いられたことでしょう。

そして何よりも、突然2歳以下のいとし子が無惨に殺されてしまった**ベツレヘムの親たちの悲しみ**。全ての人を救うためにこの世に主イエスを誕生させたのに、いたいけない子どもたちを多く死なせる悲劇をもたらしてしまっていて、神はどんなに心を痛めたことでしょうか。ヘロデに現わされた私たち**人間の罪の恐ろしさ**は、今日もなお世界の各地で多くの人々を悲しませ、泣かせています。

平和な世界、全ての人が愛し合い、いたわり合って、仲良く暮らす世界——その世界は、十字架の救い主イエス・キリストによる以外にもたらされません。主イエスよ、どうか一日も早く、再びお出で下さいと祈り求めて参りましょう。

祈ります：主なる神さま、救い主イエス・キリストの誕生をお祝い出来る恵みを感じます。自分の学んでいる学問を通して、新しい王の誕生を知り、はるばる旅を続けた学者たちが、聖書の言葉で救い主を礼拝することが出来ました。この私をあなたと出会わせてくれる聖書の学びを大切にする者にして下さ

い。自分の地位や利益を守るために、人を殺す恐ろしい罪から、私たちをお救いください。聖書の言葉を知っていても、キリストと出会おうとしない罪、恐ろしい悪を止めようとしなない自己保身の罪からお救い下さい。理不尽に命を奪われる深い悲しみから、私たちをお救い下さいますように。またお守り下さいますように。主よ、一日も早く、再びお出で下さり、あなたの平和を、打ち立ててくださいますように。救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン